

1 調査名称：総社市都市・地域総合交通戦略策定調査

2 調査主体：総社市

3 調査圏域：総社市全域

4 調査期間：平成30年7月4日～令和2年3月31日

5 調査概要：

平成29年度に実施した交通の利用状況や交通サービスの満足度など，住民ニーズや意向を把握し，都市交通に関わる問題・課題を整理した基礎調査をもとに，各地域（拠点）の実情に則した交通施策を実施し，市全体の公共交通の精度を高めることを目的に，「総社市総合交通戦略」（総社市都市・地域総合交通戦略／地域公共交通網形成計画）を策定する。

I 調査概要

1 調査名称

総社市都市・地域総合交通戦略策定調査

2 報告書目次

1. 業務概要

- 1－1 業務目的
- 1－2 業務概要
- 1－3 位置図
- 1－4 実施フロー

2. 業務内容

- 2－1 業務内容
- 2－2 成果品の内容、部数

3 調査体制

総社市地域公共交通会議

(会長：総社市コミュニティ地域づくり協議会 会長 平松 秀昭)

4 委員会名簿等

	団体・職名等	氏名	区分
委員	岡山大学大学院環境生命科学研究科 准教授	橋本 成仁	学識経験者
	西日本旅客鉄道株式会社 岡山支社 企画課長	久保 聡志	交通事業者
	井原鉄道株式会社 代表取締役	畦坪 和範	
		藤本 悌弘 (令和元年9月～)	
	岡山県バス協会	難波 昭裕	
	私鉄中国地方労働組合	吉浦 博	
	岡山県タクシー協会	高原 邦明	
	総社市老人クラブ連合会 会長	岡 弘	関係者等 (市民代表)
	総社市コミュニティ地域づくり協議会 会長	◎ 平松 秀昭	
	総社市婦人協議会 副会長	○ 守長 君子	
	岡山県立大学 情報工学部 人間情報工学科	太田 圭祐	
	総社商工会議所 専務理事	田邊 豊	地元団体 (市民代表)
		石原 和則 (令和元年11月～)	
	総社吉備路商工会 事務局長	杉原 茂樹	
	総社市観光協会 会長	佐野 誠	
	総社市社会福祉協議会 会長	風早 昱源	
総社市市民生活部 部長	新谷 秀樹	総社市	
専門員	国土交通省中国運輸局岡山運輸支局 首席運輸企画専門官	石田 剛史	国
	国土交通省中国運輸局岡山運輸支局 運輸企画専門官	西村 祐有起	
	国土交通省中国地方整備局建政部 都市・住宅整備課 課長	辻野 満	
	岡山県県民生活部県民生活交通課 副参事	末尾 正樹	都道府県
	岡山県土木部都市計画課 課長	田中 良雄	
		山本 賢介 (令和元年9月～)	
	国土交通省中国地方整備局 岡山国道事務所 計画課長	田嶋 崇志	道路管理者
	岡山県備中県民局建設部 副部長	和田 明	
総社警察署 交通課長	大西 洋幸	警察	

◎会長 ○副会長

関係出席：国土交通省中国運輸局岡山運輸支局 首席運輸企画専門官 藤井 利佳

II 調査成果

1 調査目的

総社市では、運転免許証を持っていない高齢者や公共交通網の手が届かない公共交通空白地域に暮らす方々など、市民の貴重な移動手段を確保することを目的として、平成 23 年に総社市新生活交通「雪舟くん」の運行を開始し、利便性の向上に努めております。

しかしながら、アンケート調査など各種調査をみると、雪舟くんをはじめとした本市の公共交通には、運行状況や利用方法、乗継・待合環境等において、まだ多くの課題が残されています。総社市立地適正化計画をはじめとする本市の将来のまちづくり計画と連携し、ソフト・ハード両面での公共交通の充実を図ることで、市民の外出機会の増加や健康増進、暮らしやすさの向上、さらには地域活性化や低炭素社会の実現など、プラスの相乗効果を導き、「全国屈指の福祉文化先駆都市」を実現するため。

2 調査フロー

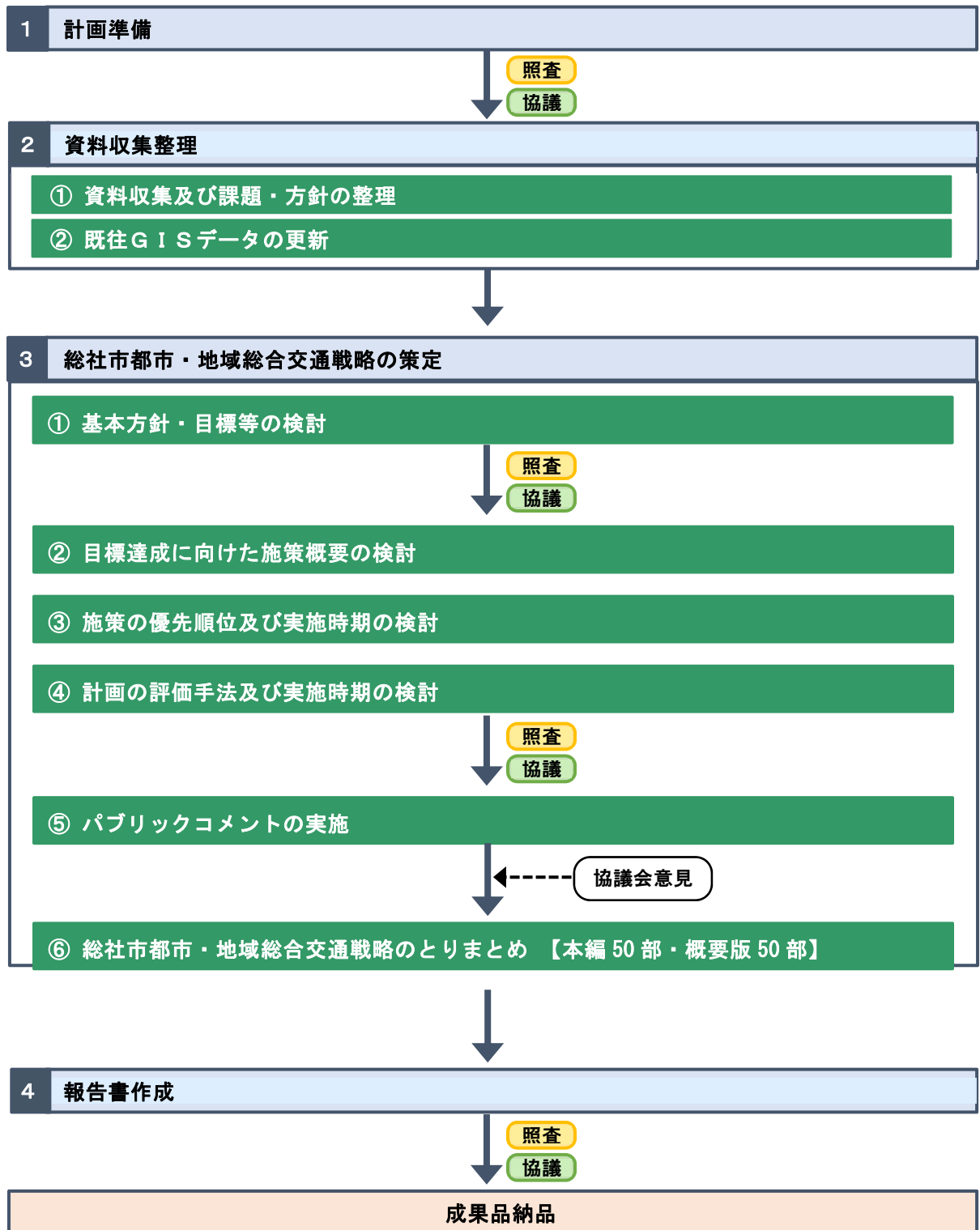


図 実施フロー

4 調査成果

①基本方針・目標等の検討

市の将来像や課題整理結果等を踏まえ、基本方針(地域公共交通のあり方等)や公共交通再編の目標(評価指標・数値目標等)及び計画の達成状況の評価手法等について整理を行った。

また、地域公共交通網形成計画の主旨ともなっている市内の各地域(拠点)から、誰もが利用しやすい持続可能な公共交通ネットワークの形成を目指した計画を検討した。

検討結果は「総社市総合交通戦略」の『第4章 本計画の理念と目標』に反映した。

■本計画の理念

暮らしやすいまちの実現に向けた地域交通体系の構築

～「全国屈指の福祉文化先駆都市」を支える交通まちづくり～

■本計画の目標

目標1：将来にわたり、安心快適に移動できる！

～各鉄道駅への二次交通の充実による安心・快適な移動の確保～

目標2：市内外への移動を充実・強化する！

～本市の基幹・鉄道の強化による移動性向上と交流拡大～

目標3：誰もが外出しやすい環境を整備する！

～ユニバーサルデザイン化による使いやすさ向上と利用促進～

目標4：観光客が楽しんで観光地を周遊することができる！

～レンタサイクルの充実や総社流観光二次交通の導入による観光文化の振興～

目標5：みんなが主体となって考え、改善する！

～市民・交通事業者・民間企業・行政の連携による公共交通の継続的改善～

目標6：中心部の魅力UPにより、健康づくりや交通安全にもつなげる！

～幹線道路や歩行者空間の整備により地域の経済活動や健康づくり、交通安全を支える～

② 目標達成に向けた施策概要の検討

公共交通の課題整理結果や目標、基本方針を踏まえ、実施すべき施策の方向性とその概要について検討を行った。また、下記に示す上位計画、関連計画を踏まえ、市内全域の公共交通ネットワークが担う役割を整理した。

なお、検討結果は「総社市総合交通戦略」の『第5章 目標実現に向けた事業

内容と業績評価指標』に反映した。

表 上位・関連計画

No.	資料名称	作成年次
1	第2次総社市総合計画	平成28年3月
2	岡山県南広域都市計画区域マスタープラン	平成29年3月
3	総社市都市計画マスタープラン	平成28年3月
4	総社市立地適正化計画	令和1年11月
5	社会資本総合整備計画 －晴れの国おかやま生き活きプランによる安全・安心な 通学路確保の推進（防災・安全）－	平成30年2月
6	社会資本総合整備計画 －総社市における災害に強いまちづくりの推進（防災・安全）－	令和元年6月
7	岡山県地球温暖化防止行動計画	平成23年10月 (平成29年3月改訂)
8	第3期総社市障がい者計画	平成30年3月
9	総社市高齢者福祉計画・第7期介護保険事業計画	平成30年3月
10	吉備線LRT化基本計画素案	平成26年12月
11	総社市交通戦略基本構想	平成22年1月
12	吉備線LRT化による公共交通ネットワーク形成計画 (案)	平成29年3月
13	新市まちづくり計画（平成16年8月作成）	平成25年9月 (一部変更)
14	都市再生整備計画（総社駅南地区／第2期）	平成23～27年度

③ 施策の優先順位及び実施時期の検討

前項までに検討・整理した施策について、優先順位を検討するとともに、概略の実施時期について検討を行った。

④ 計画の評価手法及び実施時期の検討

地域公共交通のあるべき姿や問題点・課題整理及び上位計画・関連計画や地域交通活性化及び再生の促進に関する基本方針を踏まえ、モニタリング・評価を意識した数値指標・目標値の設定を行った。また、目標の達成状況を把握するための評価・モニタリング手法及び評価の実施時期も併せて検討した。

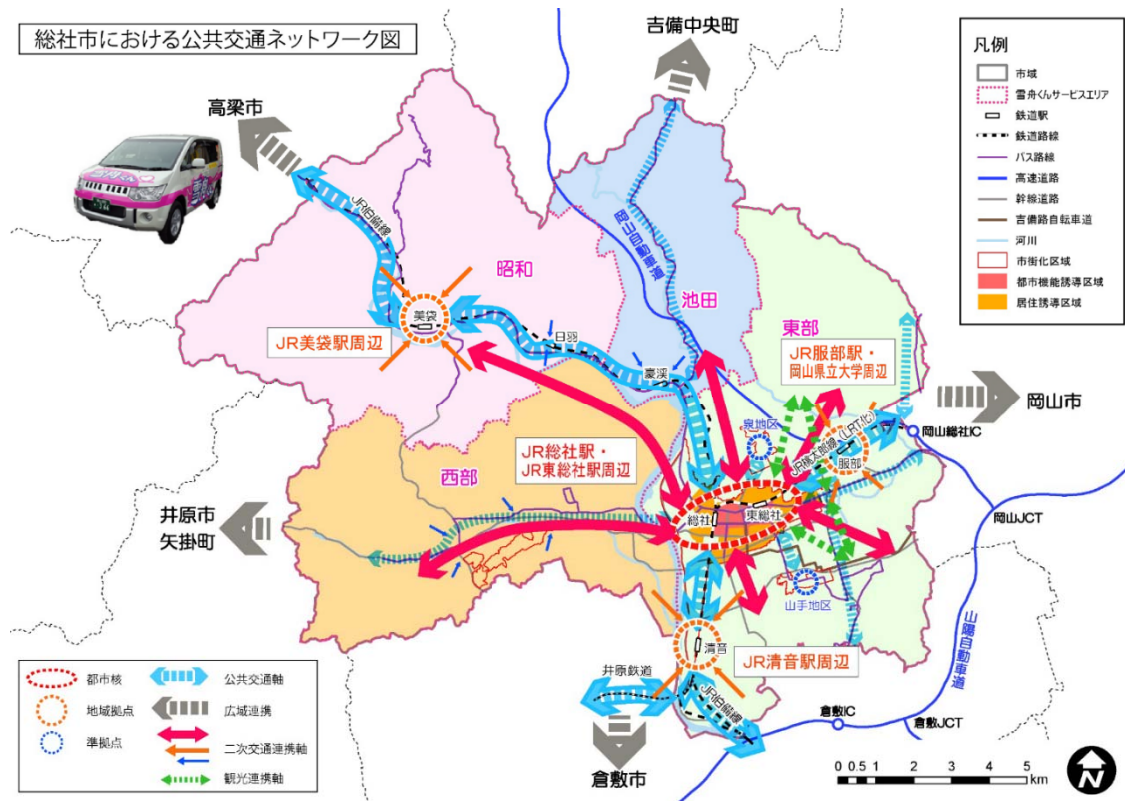
次頁に上記③、④の検討結果から設定した業績評価指標一覧を掲載する。

表 業績評価指標・現況値・目標値一覧

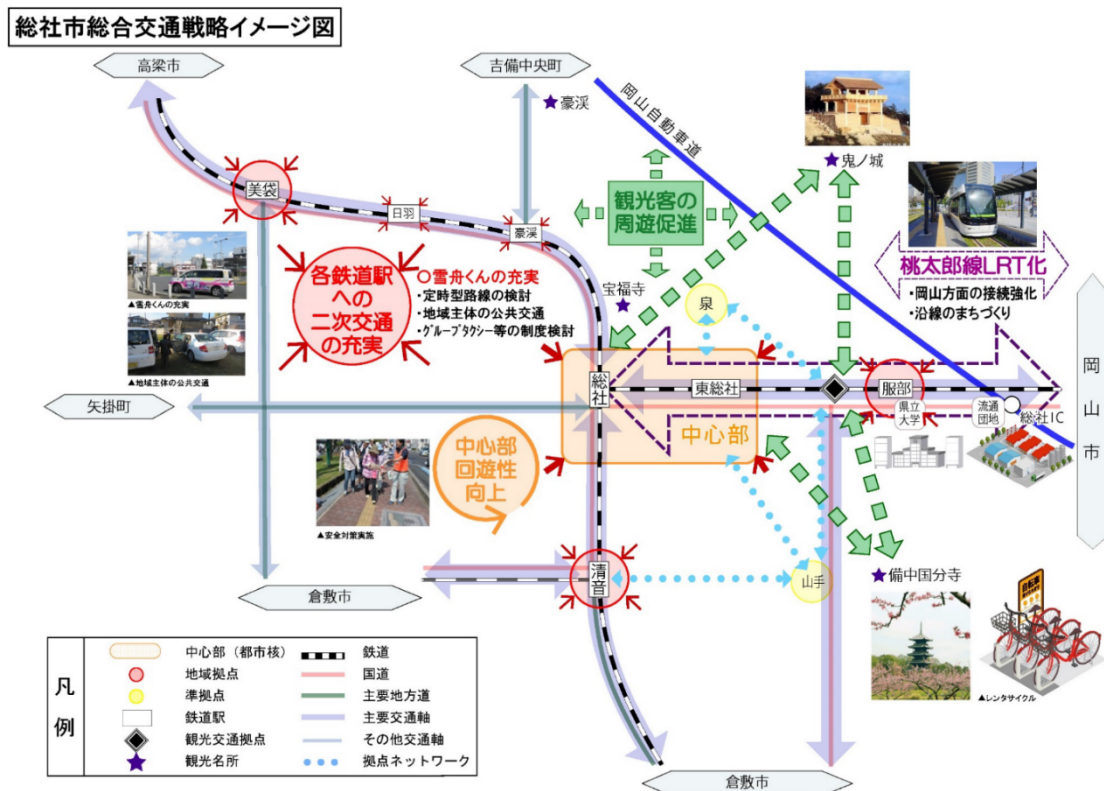
目標	事業対象	事業内容	実施スケジュール			実施主体 (◆:主, ◇:関連)				業績評価指標	現況値(H30年度)	目標値 (中間目標値)
			短期 (概ね5年)	中期 (概ね10年)	長期 (概ね10年以上)	行政	市民 地域	企業	交通 事業者			
1. 将来にわたり、 安心快適に 移動できる！	雪舟くん	①運行システムの改善	→→→→→ (R2~R3)	→→→→→	→→→→→	◆	◇		◆	登録者数	18,767人	26,000人 (R6年度 22,700人)
		②運行台数や料金等の見直し	→→→→→ (R2~R3)	→→→→→	→→→→→	◆	◇		◆	利用者数	214人/日	250人/日 (R6年度 230人/日)
										予約お断り件数	約15件/日	0件 (R6年度 0~5件/日)
2. 市内外への移動を 充実・強化する！	鉄道	①JR桃太郎線のLRT化	→→→→→	→→→→→	→→→→→	◆	◇		◆	利用者数 (JR西日本：総社市内 7駅 井原鉄道：総社市内 2駅)	JR西日本：14,926人/日 井原鉄道：1,626人/日 (井原鉄道：H26年度)	JR西日本：15,000人/日 井原鉄道：1,650人/日
		②JR桃太郎線LRT化による 新駅設置	→→→→→	→→→→→	→→→→→	◆	◇		◆			
3. 誰もが 外出しやすい 環境を整備する！	駅	①バリアフリー化の推進	→→→→→	→→→→→	→→→→→	◆	◇		◆	鉄道利用満足度	29.8% (平成26年 第2次総社市総合計画策 定のためのアンケート調査結果 鉄道・バス満足度)	50%
		②駅前広場等の整備	→→→→→	→→→→→	→→→→→	◆	◇		◆			
		③パーク＆ライド駐車場 ／サイクル＆ライド駐輪場の 整備	→→→→→	→→→→→	→→→→→	◆	◇		◆			
		④公共交通情報の充実	→→→→→	→→→→→	→→→→→	◆	◇		◆			
4. 観光客が楽しんで 観光地を周遊する ことができる！	観光客用移動手段	①総社流観光二次交通の導入	→→→→→ (R2~R3)	→→→→→	→→→→→	◆		◇	◆	観光用二次交通運行件数	129件/年 (総社市観光協会企画分は R1年度の件数を計上)	250件/年 (R6年度 175件)
		②レンタサイクルの推進	→→→→→ (R2~R3)	→→→→→	→→→→→	◆		◆	◇	レンタサイクル利用者数	3,269人/年	4,300人/年 (R6年度 3,800人)
5. みんなが 主体となって 考え、改善する！	交通環境改善	①総社市地域公共交通会議の 充実	→→→→→	→→→→→	→→→→→	◆	◇	◇	◆	総社市地域公共交通会議の 開催回数	年1回	年4回 (計画期間中)
	新たな地域公共交通の 創設	①地域主体の公共交通の 環境整備	→→→→→	→→→→→	→→→→→	◆	◆	◇	◆	新規創設数	新規	10団体 (R6年度 5団体)
6. 中心部の 魅力UPにより、 健康づくりや 交通安全にも つなげる！	歩道、道路	①商業施設等との連携	→→→→→	→→→→→	→→→→→	◆		◇	◆	商業施設等との連携	1企画/年 (R1年度)	2企画/年
		②南北方向整備予定路線の整備	→→→→→	→→→→→	→→→→→	◆				南北方向整備予定路線の 整備率	0%	100% (R6年度 50%)
		③歩行・自転車空間の整備	→→→→→	→→→→→	→→→→→	◆	◇			市民の外出率	平日：78.4% 休日：60.6% (H27年度)	平日：80.0% 休日：70.0%

下図のとおり、「公共交通ネットワーク図」及び「総合交通戦略イメージ図」を作図した。

■総社市における公共交通ネットワーク図



■総社市総合交通戦略イメージ図



⑤ パブリックコメントの実施

パブリックコメントを実施するための原稿作成（ホームページ掲載用の素案データを作成）や意見を取りまとめた。パブリックコメントの実施概要を以下に示す。

■実施方法

総社市のホームページに掲載するとともに、総社市役所（交通政策課）、各出張所で縦覧に供した。なお、意見募集期間は、令和2年2月25日（火）から3月16日（月）まで実施した。

■実施結果

意見の要旨等	市の考え方
【交通弱者について】 <ul style="list-style-type: none">今後の高齢化社会を迎えるにあたり、運転免許証を返納して自動車が利用できない人の移動手段をどのように確保するのか。	<ul style="list-style-type: none">自動車を利用できない人の移動手段について、本市として総社市新生活交通「雪舟くん」を運行しており、今後の高齢社会に対応できるよう、関係事業所等と雪舟くんの改善見直しの協議を進めていくこととしています。
【道路ネットワークの構築】 <ul style="list-style-type: none">市内移動の円滑化と市街地の渋滞緩和では、安心・安全な交通環境の確保が重要です。このためには、市道の整備拡充が求められます。地域のニーズに対応して生活道路を充実して移動手段の幅広い利用ができる通行帯を検討することが必要です。	<ul style="list-style-type: none">公共交通については、自動車交通も重要な役割を担うことから、道路ネットワークの構築は非常に重要です。市道の整備拡充など、地域の利便性向上や渋滞緩和のために必要な公共事業は着実に進めるべきものと考えております。特に、市内の南北道にはボトルネックとなっている箇所があり、通行の流れも円滑とは言えないため、南北道を重視した道路ネットワークの整備を推進していきます。
【地区内の要望事項】 <ul style="list-style-type: none">交通量の増加する国道バイパスに並行して移動できる、道路として、国道バイパス北側に東西の市道バイパスを要望しています。県立大学周囲の開発計画と合わせ、鬼ノ城交番から西に旧給食調理場付近までの移動空間整備です。	<ul style="list-style-type: none">現時点で事業の確約はできませんが、要望されている路線については、地域の皆様にとって、農業や生活道路としての役割をもつ必要路線と認識しております。
【LRTについて】 <ul style="list-style-type: none">JR 桃太郎線を LRT 化する計画が取りざたされています。服部駅と東総社駅の間の新駅の話がでています。旧給食センター付近が適地と考えられます。このことを考慮した道路の構築を合わせて検討進めることが必要です。さらに、線路を横断する踏切については、線路付近の生活道路として利用していますので、車両の通行可能を確保する必要があります。特に、服部駅踏	<ul style="list-style-type: none">道路の構築は、今後、新駅の配置や駅周辺の交通状況、まちづくりなどを勘案しながら検討していくこととなります。また、深町踏切の改良等を行う場合は、近接踏切のうち、地域住民の通行に特に支障を及ぼさない踏切について、統廃合を進める必要があります。

<p>切と観音寺踏切の間にある深町踏切周囲には、住宅が増加しており、車両の踏切通行について、関係機関と協議し、地域住民の要望に答えるよう検討を推進するよう取り組むことです。</p>	
<p>【雪舟くんについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 私が住んでいる服部地区の町内では、雪舟くんの必要性はありません。利用している人を見当たらず、高齢者も自転車等の移動手段を用いています。 • 雪舟くんは、市内の川西地区・昭和地区・阿曽地区等の中心部から遠い地区の交通機関です。 • 私の地区には、道路網の交通体系を構築することが必要です。 	<ul style="list-style-type: none"> • 服部地区の雪舟くんの利用率は、川西地区、昭和地区及び阿曽地区に比べると低い状況です。ただ、雪舟くんを利用されている方も少なからずいらっしゃいますので、利用しやすいように運行システムの改善を図っていくこととしています。
<p>【総論】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 公共交通道路整備は、交通の利便性向上があるだけでなく、高齢者や障がい者をはじめ市民全体の健康増進、医療費の減少、商業や観光、地域の活性化などに良い効果をもたらすと言われており、将来的に取り組む課題としてはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> • 健康増進につながる幹線道路・歩行者空間を整備していくとともに、都市内移動の円滑化を図るため、道路ネットワークを考慮した道路整備を図っていくこととしています。

⑥ 「総社市総合交通戦略」のとりまとめ

上記①～⑤において検討した結果及び協議会の意見を取りまとめ「総社市総合交通戦略」の策定を行った。併せて、「総社市総合交通戦略【概要版】」を作成した。

なお、作成した「総社市総合交通戦略」及び「総社市総合交通戦略【概要版】」は、報告書後段に掲載する。また、別途作成した「資料編」も掲載する。